

日本気象学会 2010 年度秋季大会

会期：2010年10月27日（水）～29日（金）

会場：京都テルサ 〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町 70 番地
(新町通九条下ル 京都府民総合交流プラザ内)
<http://www.kyoto-terrsa.or.jp/>

大会実行委員会担当機関：大阪管区気象台
京都大学
神戸大学
同志社大学
日本気象予報士会関西支部

大会委員長：佐々木秀行（大阪管区気象台）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局(京都テルサ第5会議室、西館3階)
TEL：075-692-3400・FAX：075-692-3402(京都テルサ代表)
「日本気象学会秋季大会実行委員会」とご指名ください

会場案内図



交通の案内： ● J R 京都駅(八条口西口)より南へ徒歩約 15 分
● 近鉄東寺駅より東へ徒歩約 5 分
● 地下鉄九条駅 4 番出口より西へ徒歩約 5 分
● 市バス九条車庫南へすぐ
● 名神京都南インターより国道 1 号北行き市内方面へ
九条通を東へ、九条新町交差点を南へ

大会行事予定

A 会場 : テルサホール (西館 1 階)
 B 会場 : 大会議室 (東館 3 階)
 C 会場 : セミナー室 (東館 2 階)
 D 会場 : 第 1 会議室 (西館 3 階)
 ポスター会場 : テルサホール後方スペース
 西館 2 階展示スペース

シンポジウム・各賞授与式・受賞記念講演 :
 テルサホール (西館 1 階)
 受付 : テルサホール前 (西館 1 階)
 (受付開始時刻 : 9:00)
 大会事務局 : 第 5 会議室 (西館 3 階)
 懇親会 : 大会議室 (東館 3 階)

() は講演数, — は座長

		A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
10 月 27 日 (水)	09:30～ 12:30	気象予報 (15, A101～A115) —堀田大介— —青梨和正—	気候システム I (12, B101～B112) —福富慶樹—	中層大気 (15, C101～C115) —井上 誠—	大気境界層 (15, D101～D115) —近藤裕昭—
	13:30～ 17:00	スペシャル・セッション 「黄砂とバイオエアロ ゾル:発生-輸送-分布- 沈着-影響評価へのモ デル化-」 (16, A151～A166) —長田和雄— —三上正男— —甲斐憲次— —松木 篤—	スペシャル・セッション 「異常気象と低周波変 動」 (18, B151～B168) —向川 均— —中村 尚— —木本昌秀—	スペシャル・セッション 「温室効果ガス観測技 術衛星 GOSAT「いぶ き」の利用研究」 (17, C151～C167) —今須良一— —江口菜穂— —小田知宏—	観測手法 (15, D151～D165) —川村誠治— —岩井宏徳—
	17:00～ 18:00	ポスター・セッション (99, P101～P199)			
10 月 28 日 (木)	09:05～ 12:00	スペシャル・セッション 「温暖化予測のための 力学のおよび統計的 ダウンスケーリング 研究の現状と問題点」 (12, A201～A212) —高敷 出— —木村富士男—	スペシャル・セッション 「金星気象衛星「あかつ き」の科学」 (14, B201～B214) —松田佳久—	台風 (12, C201～C212) —筆保弘徳—	降水システム I (16, D201～D216) —田尻拓也— —猪上華子—
	13:00～ 13:30	山本正野論文賞・堀内賞・奨励賞授与			
	13:30～ 15:10	山本正野論文賞・堀内賞記念講演			
	15:30～ 17:45	シンポジウム「大気圏のさまざまな境界面での相互作用」司会: 向川 均 基調講演: 谷本陽一・新野 宏・黒田友二・長谷部文雄・宮原三郎			
	18:00～ 20:00	懇親会			
10 月 29 日 (金)	09:30～ 11:30	気候システム II (9, A301～A309) —釜堀弘隆—	中高緯度大気 (11, B301～B311) —飯島慈裕—	熱帯大気 (11, C301～C311) —森 修一—	大気力学 (11, D301～D311) —前島康光—
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (99, P301～P399)			
	13:30～ 17:00	スペシャル・セッション 「マルチ気候モデルデ ータ解析による地球 温暖化現象の理解」 (21, A351～A371) —木本昌秀— —高敷 縁— —尾瀬智昭—	スペシャル・セッション 「気象情報・知識の伝 達・普及 (II)」 (18, B351～B368) —難波良彰—	降水システム II (22, C351～C372) —清野直子— —小林文明—	物質循環システム (11, D351～D361) —酒井 哲— 大気放射 (7, D362～D368) —工藤 玲—

発表件数 : 496 件 (口頭発表 298, ポスター198)

口頭発表の講演・質疑時間 : 7 分と 2 分

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には, 日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません. ただし著作者自身による利用の場合は, 利用許諾の申請は不要です.

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは, 〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail: kouenikaku2010a@metsoc.jp) まで.

大会参加費・懇親会費

大会参加費

- 大会参加費は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

- 講演者の種別：
講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）
講演者 B：講演者 A に該当しない講演者
- 講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。
- シンポジウムのみに参加する場合は、参加費は無料です。

懇親会費

- 懇親会費は以下の表の通りです。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	3,500 円	4,000 円

支払方法

- 講演者の参加費の支払い方法は前納のみとなっており、既に受付は締め切られています。
- 懇親会費及び聴講者の参加費を前納する場合は、大会ホームページにて 2010 年 9 月 7 日（火）までにお支払下さい（郵便振替の場合は 2010 年 8 月 31 日（火）まで）。それを過ぎた場合は当日払いとなります。

領収書

- 領収書は参加者本人の名義で、大会当日受付にて名札と一緒に手渡される予定です。
- 名義の変更が必要な場合には再発行が可能ですので、大会当日受付にてお申し出下さい。

その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 参加費・懇親会費には会員・非会員の区別はありません。
- 非会員の方も規定の参加費・懇親会費をお支払い頂ければ大会・懇親会に会員と同様に参加することができます。

講演の方法

口頭発表（スペシャル・セッションを含む）

- 一般口頭発表の講演 1 件あたりの持ち時間は 9 分（講演 7 分・質疑 2 分）です。
- スペシャル・セッションの発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- 講演には PC プロジェクターを使用できます。
- 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行

って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦 140 cm × 横 90 cm 程度となっています。
- ポスターの掲示には画鋏が使用できます。画鋏は会場に用意されています。
- ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。会場の都合上時間厳守でお願いします。
 - ✓ 第 1 日の発表者は 10 月 27 日 09:00～18:00
 - ✓ 第 3 日の発表者は 10 月 29 日 09:00～17:00
- ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

保育施設の紹介について

京都テルサには保育ルームがあり、生後 6 か月以上から就学前のお子さんを 1 名 500 円で（1 回の利用は 3 時間以内、超過する場合は 1 時間あたり 200 円の延長料金、ただし最大 6 時間まで）預かってもらえます。空き状況を電話でご確認の上、利用者が直接申し込みを行ってください。

京都テルサ保育ルーム TEL・FAX：075-692-3425

E-mail: kyoto-womensc25@kyoto-womensc.jp

利用日の前々日（午後 5 時）までに予約が必要です。

シンポジウム「大気圏のさまざまな境界面での相互作用」

日時：大会第2日（10月28日） 15:30～17:45

会場：京都テルサ テルサホール（大会A会場）

司会：向川 均（京都大学防災研究所）

※シンポジウムの聴講は無料です

趣旨

地球の大気圏にはさまざまな境界面が存在しています。例えば、大気と海洋との境界面、境界層と自由大気との境界面、対流圏と成層圏との境界面である圏界面、あるいは、中性大気と電離大気との境界面などが存在します。大気は、これらの境界面を通して運動量・熱・エネルギーや物質を輸送・混合することにより、上下方向に緊密に結合しています。このような上下方向の相互作用は、近年、高解像度の観測データが取得できることになったことや、各種の結合モデルが開発されたことにより、その詳細が明らかになりつつあります。

今回のシンポジウムでは、このような大気圏のさまざまな境界面での相互作用、特に、大気海洋相互作用、境界層と自由大気との相互作用、対流圏と成層圏との力学的相互作用や物質交換、中性大気と電離大気との相互作用に関する最新の知見について5名の講演者の方に話題提供して頂き、境界面での相互作用という観点で、大気圏を俯瞰してみることを試みたいと思います。

基調講演

- ・「中緯度西岸域における大気海洋相互作用」
谷本陽一（北海道大学大学院地球環境科学研究院）
- ・「境界層と自由大気の相互作用」
新野 宏（東京大学大気海洋研究所）
- ・「成層圏－対流圏力学結合」
黒田友二（気象庁気象研究所気候研究部）
- ・「熱帯対流圏界面を通じた物質交換」
長谷部文雄（北海道大学大学院地球環境科学研究院）
- ・「大気圏電離圏カップリング ―電離圏電流変動と中性大気変動を中心として―」
宮原三郎（九州大学大学院理学研究院）

総合討論

スペシャル・セッションの概要紹介

黄砂とバイオエアロゾル：発生-輸送-分布-沈着-影響評価へのモデル化-

日時：大会第1日（10月27日）13:30～17:00

場所：A会場

趣旨：黄砂とバイオエアロゾルは、「地表から飛び立って長距離輸送され、いずれ風下地域に沈着する」という点で類似している。大気への供給や輸送・空間分布、あるいは大気中での変質、沈着量の地理的分布など、概要は知られつつも未だその詳細については不明な点が多い。さらに、黄砂もバイオエアロゾルも、健康影響から気候影響まで、関連分野が広いことも共通したおもしろさと言えるだろう。

本スペシャル・セッションでは、黄砂とバイオエアロゾルの発生-輸送-分布-沈着-影響評価へのモデル化まで、似ているが異なる両分野の最新の研究成果を共有し、発生源や沈着域での観測やリモートセンシング、種々のモデリングなど、異分野交流をも含めた活発な議論を期待したい。

世話人：長田和雄（名古屋大学大学院環境学研究科）、三上正男（気象研究所）、岩坂泰信（金沢大学フロンティアサイエンス機構）、甲斐憲次（名古屋大学大学院環境学研究科）、松木 篤（金沢大学フロンティアサイエンス機構）

異常気象と低周波変動

日時：大会第1日（10月27日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：今年の冬の異常気象（北半球寒冬）は記憶に新しい。マスコミも大々的に報じるなど、社会的関心も高い。しかし異常気象の解明は一筋縄ではいかない。現象間の関係が複雑であることも一因であるが、基礎となるべき低周波変動の力学が十分に発展していないことも大きい要因である。今冬もブロッキング、エル・ニーニョ、突然昇温などが関係していたが、これらはそれぞれ内部力学、外部強制、対流圏・成層圏相互作用などの発現であり、解明すべき課題が多いことを示している。このような現状を踏まえ、これまで様々な発表されてきた異常気象（とそれに関する気候変動）の具体的研究と低周波変動に関する力学的研究を一堂に集め、その発展を横断的に概観することは非常に意味のあることと考えられる。このなかで両者をつなぐ問題意識を共有するような議論を展開していきたい。もちろん広い立場からこれらを考えることが重要なので、異常気象・低周波変動に広く関係すると思われる研究発表も歓迎

する。

世話人：伊藤久徳（九州大学大学院理学研究院），木本昌秀（東京大学大気海洋研究所），向川 均（京都大学防災研究所），中村 尚（東京大学大学院理学系研究科）

温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT「いぶき」の利用研究

日時：大会第1日（10月27日）13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：2009年1月23日に打ち上げられた温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT「いぶき」は、大きな障害もなく順調に観測を続けている。GOSAT は宇宙航空研究開発機構（JAXA），環境省（MOE），国立環境研究所（NIES）の共同プロジェクトであり、亜大陸規模での二酸化炭素の発生・吸収強度の推定誤差を半減させることを最大の目標としている。2009年2月までに初期検証作業が終了し、2010年2月より二酸化炭素とメタンの濃度データ（レベル2データ）の一般配布が開始された。本セッションの前半では、初期校正検証作業の結果を踏まえたセンサー性能とデータ品質についてプロジェクト関係者を中心に発表を行う。後半については、既に配布されたデータを用いた研究発表の他、今後公開されるデータを用いる幅広い応用分野を含む研究発表も募集する。これには、CAI センサー等を用いたエアロゾルや雲に関する発表も歓迎する。本セッションを GOSAT データの有効性と発展性を広く議論する機会としたい。

世話人：今須良一（東京大学大気海洋研究所），井上 元（総合地球環境学研究所），横田達也（国立環境研究所），中澤高清（東北大学），近藤 豊（東京大学先端科学技術研究センター），中島映至（東京大学大気海洋研究所）

温暖化予測のための力学的および統計的ダウンスケーリング研究の現状と問題点

日時：大会第2日（10月28日）09:05～12:00

場所：A会場

趣旨：21世紀気候変動予測革新プログラムや地球環境研究総合推進費戦略的研究開発プロジェクトにおいて地球温暖化予測のための力学的および統計的ダウンスケーリング研究が実施されており、多くの成果が報告されている。しかしながら、ダウンスケーリングによる温暖化予測情報を用いた影響評価や適応策への利用については、不確実性の取り扱い等を含め様々な問題が指摘されている。本セッションでは、予測の不確実性への対応、影響評価および適応策への応用、ダウンスケーリングの高度化などダウンスケーリング研究の現状を把握して問題点を整理し、今後の研究の方向性について議論する。

世話人：木村富士男（海洋研究開発機構），高藪 出（気象研究所），川瀬宏明（国立環境研究所），日下博幸（筑波大学），佐藤友徳（北海道大学大学院），高橋 洋（首都大学東京），原 政之（海洋研究開発機構），吉兼隆生（海洋研究開発機構），若月泰孝（海洋研究開発機構）

金星気象衛星「あかつき」の科学

日時：大会第2日（10月28日）09:05～12:00

場所：B会場

趣旨：日本の金星探査機「あかつき」が2010年5月に打ち上げられ、12月には観測を開始する予定である。雲層付近の大気スーパーローテーションに同期した赤道上の長楕円軌道から様々な波長で金星を観測することにより、大気の3次元的な運動が明らかになるものと期待されている。金星大気の流体力学に重点をおいた観測は世界的にも例がなく、国内外から多くの関心を集めている。本セッションでは「あかつき」によって得られる観測データとその有効な利用方法、それに必要な研究協力体制の構築、ミッションの成果を広く共有するための枠組み（データの公開やアーカイブ方法）などについて、突っ込んだ議論を行いたい。検討が始まっている日本の火星探査計画や惑星大気に関する最新の研究成果など、あかつき関連以外の話題提供も歓迎する。

世話人：高木征弘（東京大学大学院理学系研究科），今村 剛（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所）

マルチ気候モデルデータ解析による地球温暖化現象の理解

日時：大会第3日（10月29日）13:30～17:00

場所：A会場

趣旨：地球温暖化は市民生活の中でも関心の高い問題である。特に私たちの生活を左右する日々の天候は、温帯低気圧や台風の強さや経路、熱波や寒波、豪雨や干ばつといった、短周期の気象・海象の現れ方に大きく影響されるため、その将来変化についての見通しはたいへん重要である。将来気候の解析には WCRP 第3次結合モデル相互比較プログラム（CMIP3）の21世紀シナリオ実験結果などが利用されるが、世界の気候モデルによる答えには、その属性としてある程度のばらつきがある。本スペシャル・セッションでは、このばらつきを含むマルチ気候モデルの比較解析の特長を生かして、現象のメカニズムとモデル再現性についての理解を深めると共に、温暖化の影響でそれらが将来いかに変化・変調するかについての予測結果を解釈するための議論をしたい。また、IPCC 第5次報告書に向けての新気候モデル実験についての解析結果を含む議論も歓迎する。

世話人：高萩 縁（東京大学大気海洋研究所），木本昌秀（東京大学大気海洋研究所），中村 尚（東京大学大学院理学系研究科），尾瀬智昭（気象研究所）

気象情報・知識の伝達・普及（Ⅱ）

日時：大会第3日（10月29日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：気象技術の進歩とともに、気象情報が質・量ともに急速に充実している。しかし、折角の気象情報も、伝わり、理解され、活用されなければ意味がない。気象情報の作成には適切な内容と発表のタイミングが重要であり、受け手側の理解、活用も問題になる。近年の集中豪雨や津波などの事例において、さまざまな重要な課題が指摘されている。また、気象情報の伝達、活用においては気象予報士の役割が期待されている。昨年の秋季大会に続き、このセッションでも気象情報の作成、伝達、関連知識の普及・訓練に携わる人々の、日ごろの研究成果が発表されることを期待している。課題としては、①情報作成時の配慮・工夫、②伝

達に際しての配慮・工夫、③気象知識の普及（学校教育を含む）及び気象情報等活用訓練の実施、といったところが挙げられる。それぞれの問題点のありかや克服の仕方などについての発表をお願いし、その成果を共有することにより、今後の進展に繋げていきたいと考えている。

世話人：與語基宏（日本気象予報士会）、川邊昭治（日本気象予報士会）、弘中秀治（宇部市防災危機管理課）、岩田 修（日本気象予報士会）、白石晶二（日本気象予報士会）

研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

第34回メソ気象研究会

日時：2010年10月26日（火）（大会前日）13:30～17:00

場所：京都大学宇治おうばくプラザ（京都府宇治市五ヶ庄）

テーマ：「熱帯域の降水を伴うメソ擾乱の観測とモデリング」
コンビーナー：山田広幸（海洋研究開発機構）

内容：熱帯の暖かい海上（または陸上）では、熱的に不安定な成層が一様に広がる環境のもとで、クラウドクラスターやスコールラインなど、数十～数百kmの大きさに集団化したメソ対流系が発現することが知られています。

メソ対流系の発達には、より大きな水平規模を持つ擾乱や熱帯波動が関係している一方、メソ対流系による潜熱解放が、擾乱や波動の発生源になっているともいわれています。このような擾乱の実態が中緯度帯の傾圧不安定波ほど明確ではないため、メソ対流系の発生を予測することは難しく、熱帯域の予報精度の向上を阻む原因の一つになっています。しかし近年、衛星観測の高精度化や、雲解像数値モデルの性能向上により、メソ対流系と大規模擾乱との関係を調査することが可能となり、マルチスケール相互作用の理解が進展しようとしています。

そこで今回は、熱帯域の降水過程やメソ擾乱に焦点を当て、観測とモデルによる最新の研究内容を発表していただきます。熱帯だけでなく中緯度など、幅広い方面からの多くの方々のご参加と活発な議論を期待しております。

プログラム：

- 趣旨説明
- 「熱帯の対流系と中緯度の対流系：構造・組織化・環境場の影響」
竹見哲也（京大防災研）
- 「全球非静力学数値実験における熱帯のメソ擾乱」
那須野智江（海洋研究開発機構）
- 「Madden-Julian 振動における降雨バンドに伴う運動量の輸送効果に関する研究」
宮川知己（東大大気海洋研）
- 「東南アジア域における短期予報の精度検証」
林 修吾（気象研）
- 「熱帯メソ擾乱：衛星観測の限界に挑む」
増永浩彦（名大地球水循環）
- 「スーパークラウドクラスターに伴う降水システムの観測的研究」
山田広幸（海洋研究開発機構）
- 総合討論

世話人：坪木和久（名大地球水循環）、加藤輝之（気象庁数値予報課）、小倉義光（東大大気海洋研）

連絡先：山田広幸（海洋研究開発機構）

E-mail：yamada@jamstec.go.jp

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2010年10月27日（水）（大会第1日）18:15～2時間程度

場所：京都テルサ 第1会議室（西館3階）（大会D会場）

話題：雪を考える ― 降雪と積雪のフィールドワーク ―
「北極圏単独歩行から見た雪氷の変化」

荻田泰永（荻田泰永北極点事務局）

「北ユーラシアの積雪変動から見た北極圏気候変動」

飯島慈裕（海洋研究開発機構 地球環境変動領域）

「極域に降る雪の結晶」

菊地勝弘（北海道大学名誉教授）

内容：観測は自然科学の基盤の一つですが、雪氷圏の観測においては、現地にたどり着くことや観測機器における困難をしばしば伴います。今回は、雪氷圏で観測や活動をされている方々に講演をしていただきます。特に、積雪と降雪に関する観測的研究を取り上げます。

初めに、この春に北極圏単独歩行から戻られた荻田泰永氏から、北極海の海水・環境に関する報告及び今後の活動の中での研究協力についてお話をいただきます。次に、モンゴルやシベリアで数年間に亘って積雪の観測を続けている飯島慈裕氏から、北極圏規模の気候変動に関連付けたお話をさせていただきます。最後に、菊地勝弘氏には、降雪の観測、特に雪結晶の写真を使ってお話をいただく予定です。降雪の研究として、中谷宇吉郎先生から始まり、Magono and Lee(1966)に発展した雪（結晶）の分類が世界的に知られています。菊地氏を含めたグループでは、これまでの北極域や南極域のデータを含めて、雪の分類の更新を目指した活動を進めています。

降雪は、氷晶生成からそれが成長して地表に落ちるまでのせいぜい数時間程度の現象です。しかし、その降雪から作り出された積雪は、数か月に亘り地表に維持され、季節や年を越えた現象にまで議論が及びます。別々に議論されることが多い両者を見比べ、また、これまでの観測事実をもう一度見て、新しい考え方や課題を生み出すチャンスにしたいと思います。

問い合わせ先：高谷 康太郎（JAMSTEC）

TEL: 045-778-5526 FAX: 045-778-5707

E-mail: takaya@jamstec.go.jp

URL: http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl_index

オゾン研究連絡会

日時：2010年10月27日（水）（大会第1日）18:00～2時間程度

場所：京都テルサ 大会議室（東館3階）（大会B会場）

話題：（1）「JEM/SMILES 高感度受信機が拓いた地球大気観測の新しい可能性」 笠井康子（情報通信研究機構）

内容：国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」暴露部に設置された超伝導サブミリ波リム放射サウンダ(SMILES: Superconducting Submillimeter-wave Limb-Emission Sounder) は、2009年10月から観測を開始しました。残念ながら一部コンポーネントの故障により2010年4月21日から観測を中止していますが、この7ヶ月の観測で成層圏のオゾン化学にとって非常に重要な各種のハロゲン化合物やHO₂などの日変化に関する、これまでに無い高感度なデータが観測されています。今回はSMILESで得られた最新のデータと現状についてお話をいただきます。

(2)「静止衛星を用いた大気汚染観測の将来計画」 野口克行(奈良女子大学)

内容：現在、人工衛星から対流圏化学成分を観測する計画が日本を始め欧米で進行中であるが、今回は特に静止衛星による観測に関して、日本での活動を中心に国内外の状況等もまじえてお話いただきます。

世話人：笠井康子(NICT)，川上修司(JAXA)，河本 望(RESTEC)，永島達也(環境研)，高島久洋(JAMSTEC)，村田 功(東北大院環境科学)

連絡先：村田 功(東北大院環境科学)

TEL: 022-795-5776, FAX: 022-795-5775

第9回統合的陸域圏研究連絡会

日時：2010年10月27日(水)(大会第1日)18:00~20:00

場所：京都テルサ セミナー室(東館2階)(大会C会場)

内容：「統合的陸域圏研究連絡会」においては、陸面を中心とする大気境界層から土壌内に渡る陸域圏を主な研究対象とし、以下の目的により活動を行っています。

- ・陸域圏における物理的、生物的諸過程の理解に向けた、広い視野に立った研究のための情報交換
- ・陸域圏を対象とした基礎的なメカニズムの理解と、他の圏との広域的・長期的相互作用システムの解明
- ・直接観測、間接観測、およびモデリングの融合
- ・空間的・時間的スケール間ギャップの問題の解決
- ・正確な現状の認識と、実質的に意味のある手法の開発
- ・それらのための研究協力関係の構築

今回は、陸域モデルに関連する研究に焦点をあて、3名の招待講演者による講演を中心に研究会を開催いたします。

講演者および講演題目：

佐藤 永(名古屋大学)「気候モデルで用いられる植生モデルの概要、トレンド、問題点」

伊勢武史(海洋研究開発機構)「陸域生態系モデルの今後

の発展の方向性と応用の可能性」

加藤悦史(海洋研究開発機構)「予測モデルで利用される、土地利用シナリオ、土地利用変化排出推定プロトコルについて」

世話人：馬淵和雄(気象研)，大谷義一(森林総研)，奈佐原頭郎(筑波大)，伊藤昭彦(環境研)，佐藤 永(名古屋大)，大石龍太(東大大気海洋研)，立入 郁(JAMSTEC)

代表連絡先：馬淵和雄(気象研)

TEL: 029-853-8722, FAX: 029-853-8728,

E-mail: kmabuchi@mri-jma.go.jp

気象懇話会

日時：10月29日(金)(大会第3日)18:00~20:00

場所：京都テルサ 大会議室(東館3階)(大会B会場)

テーマ：「気象情報の表現および伝達の知恵と工夫」

主旨：今年も各地で猛威をふるっている『ゲリラ豪雨』、聞き始めて久しい言葉ですが、その表現の妥当性は疑問とされ、正式な気象用語として採用されていません。しかし、一方でマスメディアと一般社会の間では広く定着した感があります。

予報原稿を書くとき、伝えるとき、研究成果を発表するとき、日常会話するときなど、どんな言葉を選択するべきか、どうすれば受け手に現象の要点が正しく伝わるかは、常に気象関係者が直面する問題と言えるでしょう。

また、気象懇話会の話題は言葉の選択に限らず、市町村単位に細分化された警報のわかりやすい伝え方や、気象予報に対する知られざる潜在的ユーザーニーズの事例、次世代の地域コミュニティ防災能力を育む学校教育の提案など、気象情報の表現や伝達に関わるもの全般です。

ガイドラインとなる便利な資料や表現選択の実用ノウハウなどの紹介、あるいは日頃の悩みや疑問を起点に討論を拡げ、参加者おのおのが互いの知見を交換し、拡張し合う場となることを目指します。会場でぜひ聞いてみたいこと、話して反応を確かめたいことを話題として御提供ください。

日本気象予報士会主催のイベントです。日本気象学会秋季大会への参加登録がなくても参加可能とし、参加費も無料です。

「研究会」というより、お茶でも飲みながら気軽に闊達な討論の場にすることを考えています。皆さまのご参加をお待ちしております。

代表者：川邊昭治(日本気象予報士会関西支部)

連絡先：難波良彰(日本気象予報士会関西支部)
dwckl355@tc5.so-net.ne.jp

2011年度春季大会の予告

2011年度春季大会は、2011年5月18日(水)~21日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木)で開催される予定です。大会告示は「天気」12月号に掲載予定です。なお、春季大会の講演申し込み締め切りは2011年2月頃となる予定です。